

第 73 回町田市環境審議会議事要旨

【日時】 2019 年 7 月 2 日（火） 18：30-20：30

【場所】 町田市庁舎 2 階 会議室 2-2

【出席者】

委員：川瀬委員（会長）、堂前委員（職務代理）、根本委員、鳴海委員、高田委員、宮下委員、大久保委員、大庭委員、渋谷委員、坂本委員、大平委員、藤田委員、宿野部委員、石田委員

事務局：環境資源部 荻原、環境政策課 宮坂、川瀬、土志田、坂牧、井上、香山、環境・自然共生課 藤原、菱谷、浅野、粕谷

傍聴：0 名

【資料】

資料 1：2017 年度進捗状況の点検評価への対応状況

資料 2：2019 年度環境審議会スケジュール

資料 3：「第二次町田市環境マスタープラン」2018 年度進捗報告書

資料 4：「町田生きもの共生プラン - 生物多様性はじめの一步」2018 年度進捗報告書

参考資料 1：2019 年度エコ（環境）に関する市民アンケート調査結果

参考資料 2：後期アクションプラン環境施策 2018 年度進捗状況

【報告】

1 2017 年度進捗状況の点検評価への対応について

- 事務局から、説明を行った。

質疑なし

【議題】

1 「第二次町田市環境マスタープラン」2018 年度進捗状況について

- 基本目標ごとに事務局から、説明を行った。

基本目標 1

川瀬会長：質問はあるか。

大平委員：達成目標①で、火力発電が増えて二酸化炭素排出量が増えたと言うことだが、その部分は市民にとっては選択できるものではない。市民の立場からすると、消費電力量であると努力の結果が分かる。そういうことは可能か。

事務局：計画としては二酸化炭素排出量削減を指標にしているため、この形で示している。なお、消費量については資料 3 P.1 中段のグラフで示しているので参考に

していただきたい。

川瀬会長：二酸化炭素排出量とエネルギーの消費量の両方が資料のグラフで示されているということであった。

根本委員：達成目標③マイカー利用を控えるについて、減少している理由はあるのか。

事務局：市民アンケートの結果であり、特段大きな理由は把握していない。26.4%は「いつもやっている」という人の割合であるが、「ときどきやっている」人とあわせると60.8%である。

根本委員：データを元に評価シートを記入するので、この数値データの元が何であることを確認したい。

事務局：参考資料1が市民アンケートの結果で、P6に記載している項目が元のデータである。

基本目標 2

川瀬会長：生きもの共生プランの取り組みと重なる部分があるが、生きもの共生プランの部分は後ほど説明が別にある。それ以外のところで質問はあるか。

大平委員：達成目標①市域面積に占める緑地の割合は、市街地であるため減少するのは当然だと思う。その中で緑地を増やそうとすると、取得、整備という話になる。取得をする際に緑地保全基金を使うことになるのか。どういった基金なのか。

事務局：緑地保全基金は市で緑地を買う際に取り崩して資金とするものである。

大平委員：取得した緑地はどのように活用するのか。緑地目的で取得した後、木を植える、またはそれ以外の活用方法もあるのか。

事務局：確認の上、後日回答する。

川瀬会長：基金を用いる方法、また、それ以外の方策もあるかと思うが、調べていただき、後ほど報告いただくこととする。

基本目標 3

川瀬会長：達成目標②について、2018年度の一人当たりのごみ量は、688gでなく758gであるとの訂正、重点事業17関連でECOまちだ7月1日号を資料として紹介いただいた。質問はあるか。

大平委員：達成目標の捉え方で、処理する量を指標にしているが、ごみは発生量を減らすというのが基本である。発生量としないで処理量とした意図は何か。

事務局：町田市一般廃棄物資源化基本計画において、町田市ではごみの減量はもちろんだが、ごみをリサイクル・資源化するということを意識して取り組みを進めている。そのため、処理する量を指標としている。

川瀬会長：行政の立場として、実際に処理した量を把握して達成状況の推移を見ているということではないか。

高田委員：国の廃棄物の処理の方針で示されているように3Rには順序があり、特に熱回

収はその3つのRの中でも最後の手段である。熱回収に回すものはなるべく減らす、リサイクルもコスト・エネルギーがかかるため、できるだけリサイクルするものを減らすというように、まず削減があるべきである。達成目標③で、資源化率54%と、パーセントを指標にしていることはいかがなものか。ごみが多く出て多く処理すれば54%が達成できるということでは、環境負荷が大きい。絶対量としてどれだけにするというような目標の持ち方の方が良いのではないか。

事務局：リデュース・リユース・リサイクルの3Rの順番はご指摘のとおり重要で、熱回収は最後の手段であると考えている。一般廃棄物資源化基本計画のアクションプランの中では、生ごみのたい肥化などできるだけごみを出さない・減らしていくという考え方で進めている。

高田委員：生ごみのたい肥化でごみを減らしていく、そのための施設建設が遅れているということか。

事務局：ごみ減量アクションプランでは、施設によらない減量策を進めている。生ごみ、紙類、事業系ごみ、収集後資源化、協働・パートナーシップの5つをターゲットにごみを減らしていく計画である。

高田委員：重点事業20について、参考資料2 P.7に記載の内容と、資料3 P.5の図が関係していると思うが、熱回収施設等の整備の中にバイオガス化施設が入っている。このバイオガス化施設が稼働すると2020年度の25,700tの削減の一部になるという理解で良いか。

事務局：25,700tには、バイオガス化と容器包装プラスチックの資源化の数値が入っている。

高田委員：バイオガス化施設、容器包装プラスチックのリサイクルは3Rの中に入っている。熱回収はそれよりも下位の処理法なので、重点事業20として一体になっているのは評価がしにくい。一緒に建設が進んでいるという理解で良いのか。

事務局：熱回収施設と容器包装プラスチック、またビン・カンの資源化施設は別々である。熱回収施設は工事が進んでいるが、プラスチックやビン・カンの資源化施設は市内2ヶ所に分散する計画で進めている。こちらが進んでいない状況である。

(補足)

重点事業20 熱回収施設等の整備では、焼却施設やバイオガス化施設等の建設を一体で進めている。重点事業21 資源ごみ処理施設の整備では、容器包装プラスチックやビン・カン等の処理施設整備に向けた調整を進めている。

大平委員：熱回収施設は括弧書きで焼却施設とあるが、熱回収施設としての焼却というのは、ごみ発電のことか。それとも発電はしないのか。

事務局：熱回収施設で蒸気による発電をし、売電を行う。同じ敷地内でバイオガス化施設の整備を行っている。

基本目標 4

川瀬会長：質問はあるか。資料 3 の P.7 にはアンケート結果も載っている。その辺りも含めてどうか。

大平委員：アンケートと達成目標①大気汚染、②水質汚染は関連が無いのではないか。

事務局：アンケート結果は、達成目標③の関連として資料に掲載している。

根本委員：次回の計画、第三次町田市環境マスタープランやアクションプランを策定する際には、航空機や自動車の騒音といったアンケートで満足度が低いものを目標に入れていくプロセスになっていくのか。そのためのアンケートでもあると理解して良いか。

事務局：アンケートは、どういうところを市民の方が考えているかという情報収集の資料にもなっているので、活用していきたい。

根本委員：次期計画では、ここで挙がっている課題を重点事業や達成目標に組み入れていく方向でアンケートを実施されていると理解している。

川瀬会長：改定の際には審議会や専門委員会などで審議されていくと思う。その時にこういった過去のアンケートの結果から抽出して指標化するということはお願いしたい。

高田委員：重点事業 23 の下水道普及率について、環境白書データ集を見ると、今残っているところは郊外であり、合併浄化増を入れている。そこまで下水管を通すのか。実施するとなると達成の見通しはどうか。

事務局：担当部署に確認し、回答する。

基本目標 5

大平委員：市の取り組みを市民が知らないというのが、アンケート結果で出ている。アンケートの回収率は 38% で、回答したのは意識が高い方であると言えるが、その方であっても市の取り組みを知らない。そこをどうするかというのが一番大きな課題かと思う。環境に配慮した生活スタイルの定着には啓発が必要だが、啓発しようにもこういった現状をどう打開するか。真剣に取り組まなければならない課題である。

事務局：ご指摘のとおりである。新しい取り組みを含めて検討していきたい

川瀬会長：アンケート調査の回収率は 38% であったが、今まではどうか。

事務局：例年よりは少し良い回収率であった。例年は概ね 3 割程度である。

川瀬会長：達成目標③について、イベント参加率の減少の理由で特段のものは考えられるか。今まで増加傾向だったものが減少になったことに思い当たる理由はあるか。

事務局：要因として把握しているものはない。

川瀬会長：そうすると達成目標①の環境に配慮した行動についても同様か。

事務局：具体的に把握しているものはない。

- 川瀬会長：この辺りについて、市民委員の方はどうか。
- 石田委員：アンケート回答者の年代が違いうような誤差もあるとは思いますが、これまで増加していたものが減少したことは何か理由があるのではないかと。
- 宿野部委員：環境に配慮した行動を行うことが難しい理由として、行動する時間がないというのは言い訳だと思う。忙しい人でもやる人はやる。思った以上に数字が伸びないのは限界・頭打ちではないか。これ以上広報活動をしてあまり変わらないと思う。
- 川瀬会長：達成目標②の小中学校における環境教育は、継続的に行われ、定着している。やはり市民参加の割合が気になる場所である。
- 鳴海委員：達成目標①の環境に配慮した行動を行っている市民の割合は、どのように算出しているのか。
- 事務局：参考資料 1、P.6 に掲載している環境に配慮した行動について、当初から調査を行っている 17 項目で、「いつもやっている」、「ときどきやっている」という回答の平均値である。
- 川瀬会長：ご意見は評価シートに書いていただき、7月 22 日とその締め切りとなるので、よろしく願いいたしたい。

2 「町田生きもの共生プラン」2018 年度進捗状況について

- 事務局から、説明を行った。

- 川瀬会長：4 つの基本方針、重点プロジェクトの進捗についての説明であった。質問はあるか。
- 藤田委員：資料 4 P.9 の重点プロジェクト④について、達成目標である 3,500 人という数値はどのように決定したのか。
- 事務局：計画策定時、2014 年度に試行として生きもの調査を行ったところ、約 100 人の参加があった。2015 年度から計画を推進し、毎年 100 人ずつの増加を見込み、7 年間で累計 3,500 人という設定を行った。
- 大平委員：資料 4 P.7 の重点プロジェクト②の交流の場づくりについて、参加者を集めるのは難しいと思うが、実際に事業を行いどういところが難しいのか、打つ手はありそうなのかを聞きたい。
- 川瀬会長：実際に交流の場づくりを行ってきた感触はどうか。
- 事務局：当初エコフェスタと合わせて開催予定だったが中止となった。改めて 2 月の開催となり、都合がつかず参加者が集まりづらかったのではという推測はある。交流の場づくり以外の事業でも人を集めるというのは難しいという全体的な傾向はある。ただ、2018 年度の 26 名は人数的に少ないが、意見が言いやすい規模であった。50 名程度の会であると、個人参加の方は発言しづらいということもある。人数の多さ少なさにそれぞれ良い点・悪い点があるが、2018 年度の

開催に関しては評判もよく、結果的に上手くいったと考えている。

川瀬会長：場づくりの性格、趣旨にもよる。坂本委員は何かあるか。

坂本委員：アレチウリとはどのようなものか。駆除するということは悪影響を及ぼすものなのか。

事務局：アレチウリは特定外来生物で繁茂力がある。そのため、他の植物を制圧してしまふ悪影響を持ったものである。

川瀬会長：急に河原の堤防を覆ってしまうなど、繁殖速度が速い。在来の植物に対する影響が強すぎるということで対策をしていると思う。

坂本委員：アレチウリは町田にはいつ頃入ったのか。

事務局：何年からというのは今分からないが、かなり前からである。町田に限らず、様々なところで以前から繁殖している。

宿野部委員：関連して、ハルジオンは家でもよく見る。ビオトープの資料には殺虫剤を使わずにとあるが、どのように駆除をすれば良いのか。

事務局：色々な外来生物があるので決め手というものはないが、手近な方法は、抜いて天日に当てて枯れさせるといったところかと思う。

川瀬会長：出来れば種になる前、花の段階で引き抜いて枯らしてしまうのが良い。

川瀬会長：全体をとおして質問はあるか。

- 事務局から、書類の提出方法等、事務連絡を行った。